

青森北東ロータリーペンクラブ

S 少年 と R・C

S少年とRC

今から約百年前、S少年は上州安中の板倉候の祐筆（書道の先生）の子として生まれました。

14才の時には蘭学を始めました。十八才の頃には江戸幕府の軍艦教習所、或は海軍伝習所に入りオランダ語を学び、それによって数学、天文学、航海術などを勉強しました。

これより先今から116年前、米国のペリーが軍艦4隻を率いて浦賀に来て以来、日本は開国か攘夷かの岐路に立ち、日本の国情はまことに騒然たるありさまでした。

S少年は当時11才であったが、多感な少年だけに人一倍憂国の至情に燃え、どうにかして海外に脱出して欧米の新知識を導入して日本国を立派な国にしたい、日本の国を興したいと考えたのであります。

S少年は熱烈な愛国心にもえ孝心厚く、愛情こまやかな、そして敬虔なる宗教心を抱いた熱情的少年でありました。

海外脱出の機会を狙っていた彼にその機会が遂に来ました。先ず品川から快風丸にのって函館にゆきました。（途中潮の都合で青森県下風呂温泉に一泊しました。）時にS少年22才でありました。更に1864年6月14日夜、函館から上海行の船に乗ることができました。命がけの冒険ですが、幸に

幕末に発見されませんでした。丁度十年前安政2年(1854)年)、吉田松陰が伊豆下田に碇泊中のアメリカ軍艦に乗込もうとして失敗して捕われて処刑されたことを思えば、S青年の函館脱出は莫に幸運であったのです。

1864年7月1日に上海着。米国荷物船に乗換へ約8ヶ月目にマニラに行き、希望峰を廻り大西洋を横切つて、アメリカボストンについたのは4ヶ月後の1865年7月20でした。函館出発から1ヶ月と三日目であります。その間S青年は、ボーイをし、水夫をして辛酸をなめたのであります。

多くの人のお世話によって、アンドーバーに於けるフィリップス、アカデミー高等学校に入学できました。彼は勉学に熱心で学業の成績もよく、殊にその人物は感謝の念にみち、礼儀正しく、責任を重んじ、眞素を好み、学生、教師からの愛と尊敬の的となりました。彼はここで2年間勉学し、1866年12月終りに洗礼を受けて基督教信者となりました。敬虔にして、純潔、柔和のうちに威厳ある青年にだんだん成長しましたので江戸で21才の時に友人から借りた本の中にあつた「天父」という言葉が3年半の後、理解できたのであります。1867年6月卒業し9月にアーモスタ大学に入学し3年間自然科学、地質学を学ぶと共に諸先生から基督教的世界観を植えつけられました。哲学者で人格高き総長ジューリウス

シーリー博士の感化を受けること深く、総長から「純金には鍍金する必要がない」と評される位の信用を得て1870年にアーモスタ大学を卒業しました。S青年が米国に来た目的は前にも述べたように日本国を興さんとする愛国心からでありました。新英州5年の生活により、日本を興すには教育によらねばならぬこと、然も清教徒的の空気の濃い新英州の市民生活を實際にみてその根本を深る為、アンドーバー神学校に入学したのであります。そこで4年間勉強しました。折しも日本政府から教育視察の大官が渡米したのでその案内役をつとめ、米国はもとより欧州各地をくまなく案内し、日本の教育の基礎づくりにも貢献したのであります。1874年即ち明治7年10月中旬、ボストンを発ち、11月下旬横浜につきました。十年余の間夢にも忘れなかつた祖国日本の土を踏んだのです。時に32才でした。翌日、人力車をとほして郷里上州安中に帰り、懐しい父母の許に帰り、そこで1ヶ月を過し、1875年1月大阪にでて、私立学校を建てることを計画しました。5月に京都に学校を建てることに決り、明治8年11月29日(1875年)学生6名、教師3名にて開校式をあげました。式後2名の学生が加わり8名にて開講しました。明治10年には正式な女学校を開くに至り、明治20年には予備校、普通学校、神学校、女学校の4校となり、学生数千名に達しま

した。21年秋大学設立の趣意書を全国に訴えましたが、不幸健康を害しまして大磯に休養する身となりました。烈々たる愛国の情を病軀に抱き、明治23年(1890年)元旦を迎えました。その時の詩がここにあります。

送歳休悲病羸身 年を送りて病るいの身を悲しむことを
やめよ

鶏鳴早 報佳辰 鶏鳴はやすでに佳辰を報ず

劣才縦乏済民策 劣才たとえ済民の策に乏しくと云

尚抱壯図迎此春 尚壯図を抱いてこの春を迎う

S氏は遂に明治23年1月23日大学設立の壯図を抱きながら47才の若さを以って一生を閉じました。

皆さん、Sさんとは誰でしょうか？ Sさんは幼名を七五三太(しめた)と呼び、後年は上海で船長から与えられたジョセフの名称をもじって襄(ジョー)の名で呼ばれた新島襄その人です。その一生の略歴は、

22才まで 内地修学時代

23才～32才 米国留学時代

32才～47才 同志社創立、大学創立準備運動時代

の三つに分けられましょう。勝海舟から「洗礼を受けた吉田松陰」といわれたのは蓋し至言でしょう。

さてここでこの偉大なるSさん即ち新島襄先生は我々と深いつながりのあることをお知らせしたいのです。

① 新島襄先生の最大の協力者が2人東北人でありました。同志社の名の由来は「山本覚馬氏と新島襄と志を同じくする者の結社」という意味であります。その山本覚馬氏は盲目であるに拘らず新島襄先生の最大の協力者でした。彼は会津藩士でありました。その妹八重子さんは白虎隊で有名な会津籠城の女丈夫であり、明治9年新島襄夫人となられ、内助の功をたてられました。

② 新島襄先生と東北地方

同志社大学を建てる前に、東北地方にもキリスト教主義の英学校をつくらねはならぬと考えられ、仙台市に東華学校と名づける英学校をつくって、1887年6月17日(明治20年)開校式をあげました。開校の演説は新島襄先生によって行なわれました。東北が先生の関心が深い期待をかけられた選ばれた土地であったことを改めて銘記したいのであります。

③ アーモスト大学と奨学資金制度

新島襄先生の肖像はアーモスト大学の礼拝堂の壁に掲げられて卒業生中第一等の人として尊敬されています。その卒業

生のたてた同志者を東洋のアーモスト大学と考へて今に至る
遠数十年間新島奨学資金を以て留学せしめ、且つ、アーモス
ト大学よりは教授を同志社に送って援助されています。ロー
タリー財団の奨学生制度と同じ働きを日本の青少年の為につ
くして下されています。

④ 新島襄先生と東ヶ崎潔さん

東ヶ崎さんが R.I 会長になられる直前に夫人三寿さんが死
去されました。三寿さんは金森通倫先生の息女であります。
金森先生は新島襄先生の愛弟子であり同志社第 1 回の卒業生
であります。先生臨終の時に「神よ、わが愛する新島先生を
あなたの御もとおかえし致します」と祈禱を捧げた人であ
ります。東ヶ崎会長の岳父の恩師が新島襄先生であります。

⑤ アーモスト R.C と青森 R.C

国際理解の為、近年マッチドクラス（組み合せクラス）が
R.I よりすすめられているが、アーモスト R.C との組合せ R
C は

1965～1967年 青森 R.C

1968～1969年 五所川原 R.C

となっています。

私は百年前の S 少年を紹介しましたが、東北地区ロータリ
アンとの奇しきつながりの多いのに驚きの声をあげています。

これこそ天の啓示、神の命じ賜うところと考へざるを得ない
のであります。

S さんのような少年、青年に満ち満ちた日本とすること、
それはロータリアンである我々が、R.I の示す通り、東ヶ崎
さんのいう通り、青少年にインターアクトクラスを作ること
又ローターアクトクラスのメンバーをみつけることではない
でしょうか。私は我々の日本から R.I 会長東ヶ崎潔さんを出
している関係上、頼まれたこと命ぜられたことを完遂したい。
即ちその在任中に少くとも東北 6 県の各 R.C がインターアク
トとローターアクトを必ず作ることを実現したい。確かに衆
な問題ではないけれど、至難ではありません。

47 才の新島襄先生が当時日本に東京大学よりなかった時
代に、日本で第 2 番目の総合大学（私立としては第 1 番目の
総合大学）を勝海舟からそんなことができるものかといわれ
た大学を設立しようとした命がけの努力、苦心を思えば、い
と易いことではありませんか。80 年前の元旦に詠まれた「
送歳」の詩は、今でも私共を奮起させます。私共はこれに感
奮して、インターアクトとローターアクトの 2 つのクラスを
6 月までに作りあげること、東ヶ崎会長に対して全クラス
にて誓い合いたいものであります。

（青森 R.C 樋口喜四郎）